

Enrico Giovannini(OECD)

国際機関のデータ品質に関する会議
Newport, Wales, 2006年4月27-28日

国際機関のためのQ2006

2004 年会議以降の前進と今後の方向

Enrico Giovannini(OECD)

OECD  OCDE

国際機関のためのQ2004


概観

- 2004年5月24-26日、ドイツ、マインツでのQ2004に引き続いて開催された
- CCCSに属する15以上の国際機関が参加した(32名の派遣者)
- これにヨーロッパ、アジア、南北アメリカからの10カ国(25名の派遣者)が加わった。

OECD  OCDE

Q2004 のセッションのテーマ

- 国際機関が遂行する統計活動を評価し、改善するための品質枠組み(Quality frameworks)
- 同じ主題について種々の国際機関が公表するデータの整合性
- データとメタデータの収集、管理、配布のための道具と政策(Tools and policies)
- パネルディスカッション - データの品質を確保するための国際的協力の将来方向

OECD  OCDE

Q2004 セッションのテーマ

国際機関の品質枠組み

OECD; FAO; 国連統計部(UNSD)の提出論文

- 品質枠組みの要素(次元、評価プロセス他)の概略提示 - 内部的焦点(OECD) - 外部的焦点(FAO)
- 国連政府統計の基本原則、IMFのDQAF、および(その後の)国際政府統計の原則宣言案の関係
- 国際政府統計の品質枠組みに向けての前進をどうはかるか - 枠組みタスクフォースによって以後とりあげられる

OECD  OCDE

Q2004 セッションのテーマ

異なる国際機関が公表する同じデータの整合性

- UNDP; UNICEF, OECD, ECE, 世界銀行が提出した論文
- 不一致の異なるタイプの認定
 - 不一致についての一連のありうる原因の認定
 - 論文は、国際機関の間での協力における改善、特にデータ収集の領域で、を確認した
 - 解決のためのアイデアを今後委ねた

OECD (OCDE)

Q2004 セッションのテーマ

データとメタデータの収集、管理および配布のための道具と政策

- UNIDO; UNESCO; ILO; OECD; ECB; IMF; OECD; FAO; UNSDが提出した論文
- データとメタデータの収集、管理、配布のために最近個別に導入されたITイニシャチブ
 - 他の国際機関とのデータおよびメタデータの交換の機構をとりあげた、例えば、共通の基準の採用に基づく自動化されたシステム(ECB) 異なる国際機関による共通の調査票の使用によるその他 (UIS).
 - 殆どすべての論文が瀬しとお改善するための、データベースシステムと導入されたデータ品質評価枠組みのリンケージにふれた
 - SDMXが開発しつつある道具/ 基準を使ってのシステムの変化についてふれ/強調した(ECB, OECD, IMF).

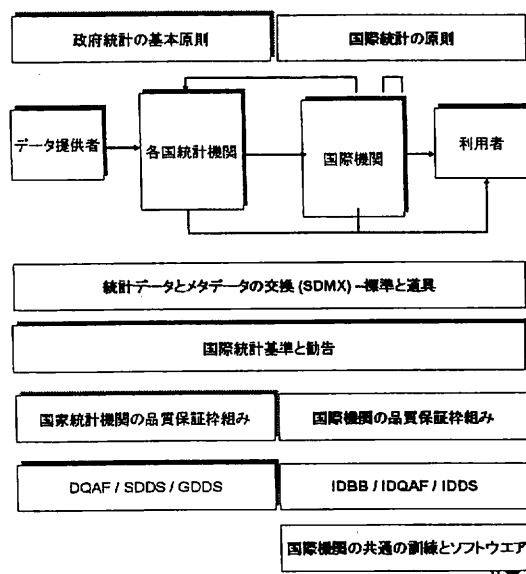
Futureデータの品質を確保するための国際的協力の将来方向

パネルディスカッションの結論が及んだのは:

- 国際統計の原則宣言を開発する必要
- 国際機関と各国機関が使用する生産過程の類似性の確認
- 国際レベルで要となる品質次元の確認:とりあげている国の範囲、比較可能性
- 品質評価 対 品質保証
- 調整/協力の程度
- メタデータとITの重要性

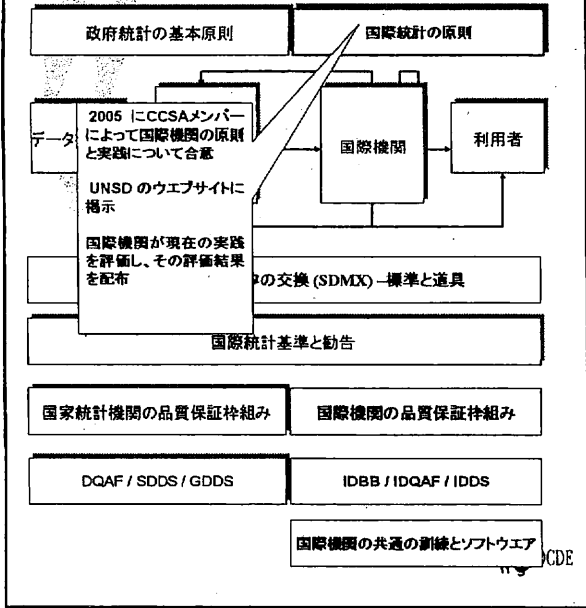
OECD (OCDE)

当初の品質枠組み

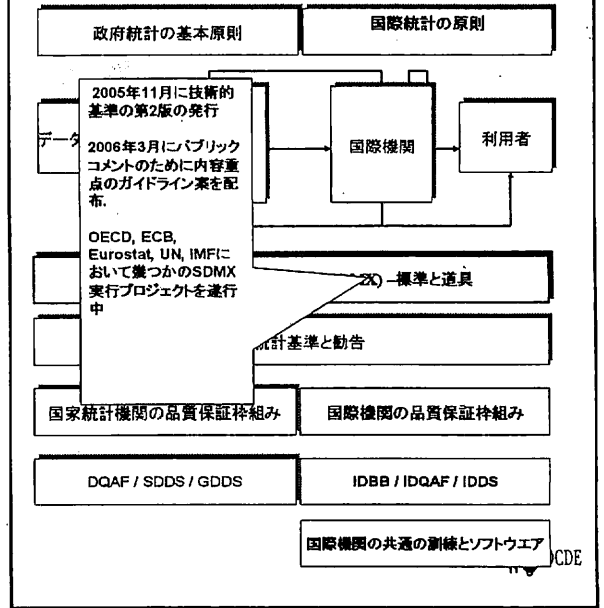


OCDE

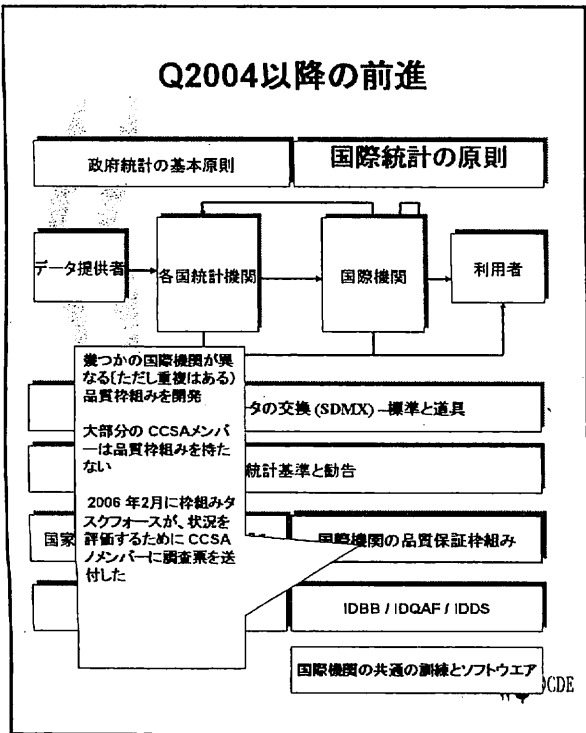
Q2004以降の前進



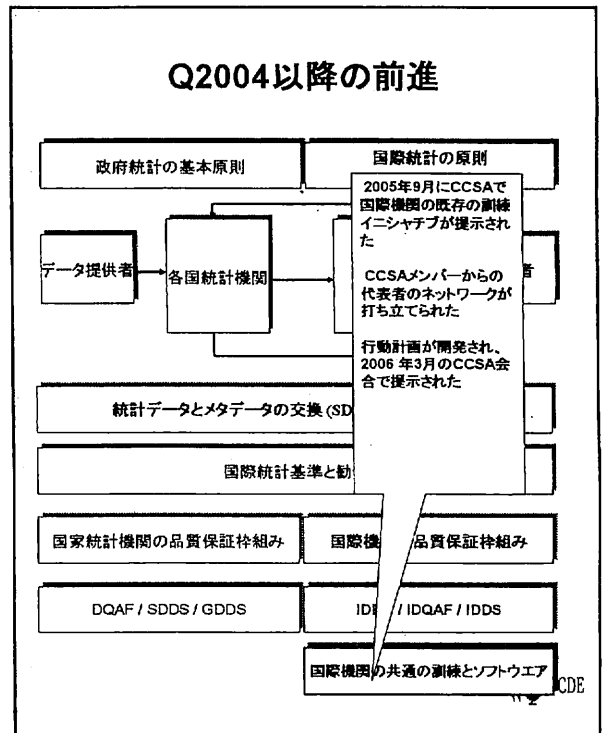
Q2004以降の前進



Q2004以降の前進



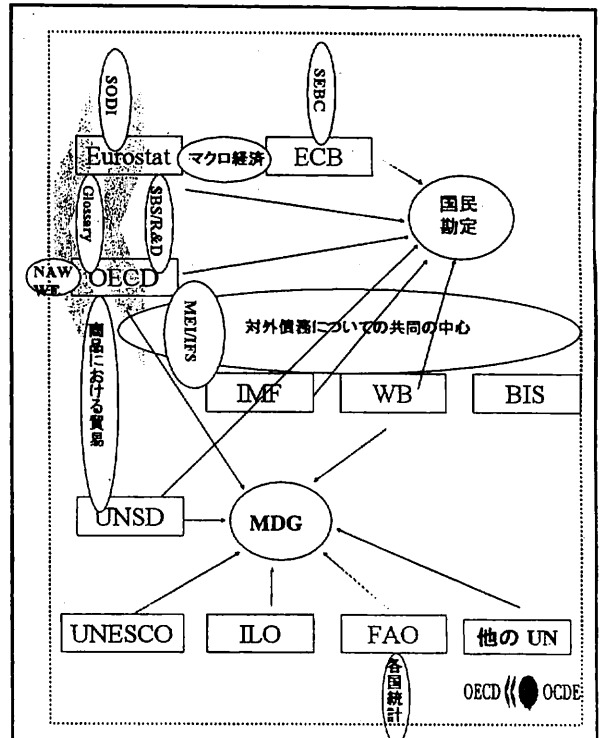
Q2004以降の前進



Q2004以降の前進

- 重要な前進があるが、余りにも遅い
- 国際統計界の内部と外部の両方で、外部的感覚の点からみつと影響をもたらしていない
- 資源制約が重要であるが、多くの国際機関で戦略的決定の欠如がある
- 改善/変更の中期計画が必要である

OECD  OCDE



今後に向けてのありうる方法

原理/ガバナンス

CCSAは公開のウェブサイトを開き、ここで国際機関からの報告が公開されるようにすべき

- 報告と遠隔からの更更新手続きのための共通テンプレート/フォーマットを開発する必要 (活動に関するECEのデータベースが利用可能である)
- マーケティングが必要 (新聞発表、他)
- CCSAは進化し、国際機関のトップマネジャーや外部世界に向かってより強く、権限を持つものになるべき
- 2008年のUNSCへの報告

OECD  OCDE

今後に向けてのありうる方法

技術的インフラストラクチャ/SDMX

国際機関の間でのデータの共有が拡大されるべき。データ構造を開発するために、より多くの共同ハブ (MDGs, 教育、国民勘定、他) と ISWGsへの指令が必要。

- 国際統計制度のための共通の道具 (用語辞典, 知識ベース, 他)のネットワークの企画:
 - OECDの用語辞典, StatWorks, MetaStore, 他.;
 - Generalise FAOの国別統計アプローチ, 特に開発途上国向け, の一般化;
 - データベースの配布と統合に向けた DevInfo
- UNSCによる 2008年の:基準してのSDMXの採用

今後に向けてのありうる方法 品質

- タスクフォースの作業の迅速化
- 国際機関向けの品質についての知識ベースの樹立
- 国際データ配布基準(International Data Dissemination Standards: IDDS)の開発
- 品質の高い国際統計に「ラベルをつける“labelling”」という考えを一層発展させる
- CCSAの支援の下でのピア・レビュー(同業者評価)の実験